

【助成事業の名称: 婚活サポート事業 ～八幡山の婚活キツネが恋愛成就をお手伝い～】

ポイント

竹を活用したアート事業と若い移住者で城下町の活性化を狙う

「荒城の月」のモチーフとなった岡城の城下町の商店街が、歴史・文化を背景に、豊富な資源の竹を活用した様々な“灯のイベント”を展開。また、竹田の街に愛着を持ってもらい、移住を勧める婚活イベントや現代アートと食のコラボで地域の活性化を狙った事業を実施し、人と環境にやさしい芸術の街づくりを推進している。

商店街情報

所在地: 大分県竹田市大字竹田町386番地
商店街の類型: 地域型商店街
地域の人口: 22,661人 10,393世帯(平成29年3月31日時点)
組合員数: 116名
(主な業種構成: 生鮮三品・飲食料品、飲食店、衣料品、書籍、日用雑貨、旅館、病院、土産物等)
電話: 0974-62-3139 Fax: 0974-62-2727



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

大分県の南西部、九州のほぼ中央に位置する豊後竹田市の中心商店街。北にはくじゅう連山、西には阿蘇山が聳え、南には祖母山系の山々に囲まれており、豊富な湧水や温泉に恵まれた自然豊かな地域である。江戸時代には岡藩7万石の城下町として、奥豊後地域の政治・経済・文化の中心的役割を担ってきた。また、歴史・文化と観光資源の面でも名曲『荒城の月』のモチーフとなった岡城址、武家屋敷跡、隠れキリシタンの洞窟礼拝堂、滝廉太郎記念館等があるほか、地域特産の竹を使った竹灯籠によるイベントが行われ、これを目当てに訪れる観光客も多い。

さらに、竹田市の場合は地形的にも極めて大きな特徴がある。西に位置する阿蘇山の約30万年前からの度重なる噴火とその火砕流によって形成された「溶結凝灰岩」の断崖に市街地全体が囲まれており、竹田の街に行く場合必ずトンネルを通らなくては行き着くことができない。このため崖に囲まれた市の中心部の城下町エリアにおいては、殆どの歴史・文化施設等に徒歩で行くことができるほどコンパクトな市街地が形成されている。この小さな城下町の歴史的景観は、地形と市民の長年に渡る保存への努力によって守られてきたものといえる。

竹田町商店街振興組合は、昭和30年に設立された「竹田市古町商店街振興組合」と昭和40年に本町商店街と東部商店街が合併し設立された「竹田市中心商店街振興組合」が平成18年に合併して誕生した。現在組合員は116、市内の中心部の半径500m程の街区には、飲食店、土産物店、飲食料品店、荒物屋、旅館、病院、金融機関等買回り品と最寄り品の店舗が混在している。現在も“人と環境にやさしい街づくり”をコンセプトに、おもてなしベンチの設置等のほか、賑わい創出のために「ひな祭り」「桜まつり」「夜市」「竹楽」等のイベントを積極



通るとメロディーが流れる廉太郎トンネル



岡城址

的に開催・協力している。しかし、商業環境の悪化等によりイベント活動等を通じた街全体の統一感の醸成がなかなか難しいことや、城下町としての歴史文化・観光資源を十分に生かし切れていないほか、後継者不足による空き店舗の増加も大きな課題となっている。

こうした中で近年は、地域おこし協力隊の積極的な活動に加え、“創る”ことを仕事とするアーティストや作家が竹田市に移り住みつつあり、これによって空き店舗の有効活用が進んでいるという明るい話題も出てきている。

助成事業の概要とその成果

当商店街では、従来から2万本の竹灯籠に蠟燭を灯す「竹楽」、竹のアートに明かりを点す「竹ほたる」等のイベントを積極的に実施してきたが、少子高齢化による商圈人口の減少に加え組合員店舗の後継者対策などが大きな課題となっていた。そこで平成25年事業では、通行量と店舗の売上増に加え竹田市への定住人口の増加を狙って「婚活サポート事業」を実施。26年事業では空き店舗を活用した活性化策「アートと食のチャレンジショップ」を実施して地域の活性化を目指した。

【25年度：八幡山の婚活狐が恋愛成就をお手伝い】

通行量や売上の増加だけでなく、将来を担う若者の交流人口を増やし、少しでも定住者を増やす試みとして実施した。特に、町の中心部にある八幡山の愛染堂は、岡藩主の祈禱所であり、その内部には多くの仏像が安置されており、縁結びや商売繁盛、合格祈願などのご利益が絶大と言われている。そこで本事業では愛染堂にあやかり、大分市在住の女性と地元竹田市の若者にイベントの準備段階から参加してもらい、親交を深めるとともに、竹田をより身近に感じてもらい愛着を持ってもらうことを狙った。

具体的には、①婚活イベントの告知を兼ねた「女磨きin大分市」、②地元若者のおもてなしの向上を狙った「男の品格講座・男磨き」、③一緒にイベントを作り上げ、地元の人たちとの交流を兼ねた「七夕夜市」、④竹田産食材による「料理教室」と竹楽に使用する竹灯籠づくりに参加してもらった「竹灯籠結束作業」、⑤竹灯籠とともに火を灯してもらい幻想的な雰囲気共有してもらった「竹楽」、⑥竹ひごで竹のアクセサリを編む「ワークショップ」等のイベントを共に実施していただいた。

【26年度：アートと食のチャレンジショップ】

商店街など竹田市の中心市街地の恒常的な集客力と販売力の向上を狙い、地域の行事に合わせた集客イベントや、空き店舗を活用した新たな魅力創出事業を展開した。

具体的には、①既存の「子ども夜市」や、八幡山愛染堂の御開帳に合わせて年6回開催する「八幡山縁日楽市楽座」。このイベントに合わせて地元で活躍するアート集団とのコラボで、アート体験・交流の場、絵付け教室や大道芸を開催。②竹田の新たな文化的価値の創造を狙って「街中アートギャラリー」として、空き店舗を活用したアート・クラフト等の展示を行うとともに、ワークショップやスタンプラリー等の参加型事業を実施。③“古き新しき良き時代”をテーマに「竹田の食文化・Tabeta」として、長い歴史の中で培われた竹田の食文化を再現、併せて料理専門家による創作料理の試食会や漆器・食に関するアート作品の展示等を開催。④「音楽交流事業」として、オカリナ奏者などを招いての竹田に由来するプログラムでの音楽交流を実施。⑤ご当地グルメである「竹田ちゃんぽん」の普及を狙った試食会と講習会等を実施。⑥岡藩の藩校に祀られていた孔子聖像の掛け軸が里帰りした事に因み、「論語塾」を開催。



古い町並み



八幡山愛染堂



婚活イベント風景



楽市楽座の様子



竹のアート作品

＜助成事業による成果等＞

婚活事業では、自然な出会いを演出するとともに、イベント事業の準備段階から参加してもらうことで竹田への愛着を持ってもらうことができた。この事業により新たなカップルがめでたく1組誕生した。また、アートと食のチャレンジショップでは、空き店舗の有効活用に結びついたほか、地域おこし協力隊、アート集団とのコラボ等により地域の新たな魅力づくりに効果があった。特に、竹田を感じることのできる多彩なイベントで市民だけでなく観光客にも楽しんでもらい、賑わいの創出に多大な効果があった。



子ども夜市

助成事業以降の商店街活動

当商店街では、恒常的な集客の促進や販売力の向上を狙って、11月には「竹楽」、年6回開催している「八幡山縁日楽市楽座」のほか夏には「子ども夜市」などのイベントを開催している。また、商品券発行事業、歳末大売り出し、駐車場の管理・運営、販売力向上のための「きらり輝く繁盛店づくり」にも精力的に取り組んでいる。

特に、「竹楽」は、毎年11月の第三金曜日から日曜日の3日間、2万本の竹灯籠に蠟燭を灯し、神社・仏閣、歴史的風情の残る道路等に並べるもので、毎年三日間で10万人を超える人々が集まる一大イベントである。竹田市には、日本古来のモウソウチクやマタケなどの竹資源が豊富にあったが、近年は竹の需要減とともに竹林の荒廃が進んでいることへの対策と、商業や観光産業の振興を目指して始められたもの。16時、観光客が見守る中で一斉に点火され、屋台村やコンサートなどとともに人々を楽しませている。

「八幡山縁日楽市楽座」は現在も開催しており、1月は大売り出しと抽選会、3月はひな祭りで江戸時代からの趣深いお雛様やオリジナルの竹雛を展示、夏には子ども夜市や子ども神楽で家族皆で楽しんでもらい、10月は収穫祭を開催している。

このほか、竹を組み合わせた8mほどの大きな「竹田オブジェ」を高速道路のICに設置、県立芸術文化短期大学の学生との連携で毎年12月初旬から点灯する竹のアートを使ったイルミネーションの「竹ホタル」などの街中の賑わいづくりと地域をPRするための事業を実施している。さらに、街中アートカルチャー実行委員会との連携によるアート工芸やモノづくりに関連する多彩なイベントを開催し、街中の賑わいづくりと地域全体の活性化に取り組んでいる。



火を灯した竹楽と準備風景



竹ホタルを準備する芸短大生



竹田の竹雛(商家の蔵にて)

自治体による活性化支援等

竹田市

竹田市は大分県の南西部に位置し、瀧廉太郎が「荒城の月」の構想を練った岡城で知られる城下町である。幹線の国道57号で大分市、熊本市の両県都を結び、九州の東西を連結するなど道路交通網の拠点として重要な位置にある。産業としては、夏の冷涼な気象条件を活かした農業と、自然だけでなく岡城跡や武家屋敷、ジオパークなど歴史や文化にも触れ合える観光が盛んで、年間約20万人の観光客が訪れている。

竹田市の商業については、少子高齢化の影響や道路網の整備による購買力の流出等で営業が難しくなり、空き店舗の増加とともに商店街の機能も弱くなっていることが課題である。今後は城下町の再生を図ることがポイントとなるが、域内での消費拡大は難しい面があるので、観光客の呼び込みによる消費の拡大を視野に入れている。具体的には、岡城址を訪れた人を商店街に呼び込むために、飲食や土産品関係の強化など商業地としての魅力を高めていくことが必要と考えている。また近年は、地域おこし協力隊による街の活性化への取り組みのほか、竹細工などのクリエイターが空き店舗などを活用して移り住み新たな事業の立ち上げを行っている。

そこで市では、「竹田市空き店舗対策事業奨励金制度」を設け、空き店舗を利用して新規に事業を行う人や、事業実施者に対し店舗を売却又は貸し出す人に対し奨励金を交付して新たな活動を支援している。空き店舗を売却等する場合は10万円の奨励金が交付され、空き店舗を活用して新たに事業を行う人には、10万円の奨励金が3年間交付されることとなっている。

婚活キツネ



商店街の今後の戦略

～竹とアートと人づくり～

助成事業では、竹田に愛着を持って移り住んでもらうことを狙ってパワースポットの愛染堂を活用した「婚活サポート」を実施し、次の年には空き店舗を活用した竹田の食文化と現代アートのコラボによる新たな魅力づくりに取り組んだ。こうした事業によって地域との結びつきが強くなり、商店街活動への認識を深めてもらった。しかし、少子高齢化などで旧市街地の人口減少が進んで商売は厳しくなり、みんなの意見がまとまりにくくなっていることも事実だ。また、商店街のイベントの担い手が足りなくなっており、役員たちの負担が増えていることも課題となっている。一方、地域おこし協力隊による活性化策や若い芸術家が移り住んで芸術活動やギャラリーやパン工房など新しい商売を始めているケースが出ており、こうした動きに期待し、支援して行きたいと考えている。

当商店街では「人と環境にやさしいまちづくり」を目指しており、芸短大生とのコラボによる「竹ほたる」や楽市楽座での「竹田みんなでアート」など地域の人々の交流に加えて観光で来たお客様も共に楽しめる事業を進めていきたい。そのためには新たな担い手を育てていくことが重要で、店を開いた若い世代の人達が、街に馴染んで一緒に盛り上げていけたらよいと考えている。



～ 仕掛け人 ～

竹田町商店街振興組合

左 副理事長 桑島隆 右 代表理事 都築員守

取材を通じて明らかになったこと

当商店街は、歴史・文化的に数多くの資源を有するものの、地理的な要因により大きな規模の発展が難しい中で、竹資源を活用した様々なイベントを展開し、商店街だけでなく地域全体のPRに取り組んでいる。特に、芸術短大生とのコラボによる新たな集客事業の展開や、アートをベースに新たな移住者を呼び込み、長い歴史の街中に新たな息吹を生み出している。こうした活動は、組合の役員達の新しいものを積極的に取り入れるという姿勢によるところが大きい。歴史に埋没する商店街が多い中で、参考とすべき取り組みといえよう。